



今日は七夕。もともと七夕は五節句のひとつで、豊穰、上達、成就等を願う行事です。生徒一人ひとりの願い事が叶いますように。今回は、本校ならではの学習支援「シニアティーチャー」と、中等部1年生に聞いたアンケート結果を御紹介します。



## 高校生と中等部生がつくる“学びの循環”（第1回 シニアティーチャー）

1学期のシニアティーチャーでは、教える高校生と教わる中学生が同じ机を囲み、互いの学びが響き合う時間となりました。その場に流れていたのは、知識だけではなく、相手を思う気持ちや、学びに向かう真剣さ。今回寄せられたコメントからは、学年を越えてつながる“学びの力”が確かに感じられます。

### 高

高校生は、教える難しさと自分の理解の甘さに気づきながら、中学生の真剣さに刺激を受けて成長していました。伝え方や要点整理など、次回への改善意欲も高く、学び合いの文化を支える姿が見られます。

- 中学生の子はとても真剣に話を聞いてくれて、とても教えがいがあったなと思います。（Aさん・数学）
- 質問がなくなりそうな時に、こっちから問題を提示することができた。（Oさん・数学）
- 説明しなくてもいいところまで説明していた気がする。次はもっと要点をまとめたい。（Oさん・理科）
- 先生が教えているのは案外難しいんだと思った。（Kさん・英語）
- 問題をわかりやすく伝えるのが難しかった。相手の反応を見ながら頑張った。（Kさん・数学）
- 単語を覚えるのが苦手と言っていた中学生に、どうしたら覚えやすいか考えながら教えた。（Wさん・英語）
- 中学生は考えることをやめなかった。その姿に感銘を受けた。（Uさん・数学）
- どのように教えたら理解できるか考えながら教えることができた。（Iさん・数学）
- 中学の内容でも、聞かれると分からないことが多かった。予習してくればよかった。（Fさん・理科）
- 相手の子が解けるようになっていく様子を見るのが楽しかった。自分自身がちゃんとわかっていなかったり、高校の知識がないと教えるのが難しいことが多くて、ちょっと大変でした。教師という職業の大変さを垣間見た気がします。（Aさん・数学）
- 新たな視点からの質問があり、教えることの難しさと同時に面白さを学んだ。（Kさん・数学）
- 社会なら面白いエピソードを伝えればいけると思ったが、甘くはないと知った。（Hさん・社会）
- わかりやすく伝えてるつもりでもわからない時があるから、伝え方を工夫できるように内容を理解することが大事だと知った。（Nさん・理科）
- 復習できたのもそうだけど、それ以上に楽しく一緒に勉強できたのがよかった。（Oさん・理科）
- 教えることは学ぶことなので、良い体験ができました。（Mさん・数学）
- 教えていると、なんで？を追求していきけるし、確かに！と言うものや、どうこれを教えるかななどを考えるきっかけになるからすごい勉強になる時間だった。（Mさん・英語）
- 一生懸命に聞いてくれて嬉しかった。自分よりも計算が早くて自分も頑張ろうと思った。可愛かった。（Tさん・社会）

### 中

中等部生は、高校生の丁寧でわかりやすい説明に安心して学ぶことができ、苦手克服や学習意欲の向上につながっていました。また参加したいという声が多く、満足度の高い学びの場となりました。

- 初めてでどんな感じで進むのかよくわからなかったけど先輩がわかるまで熱心に教えてくれた。私が時間内に問題をとき終えられなかったが時間が過ぎても残って教えてくれて嬉しかった。（Eさん・数学）
- とてもわかりやすい説明で、優しかったです。（Sさん・数学）
- 高校生がそばにいてくれるとすぐに教えてもらえて、これからも通い続けたいと思いました。（Sさん・数学）
- 苦手だった社会をもっと知ろうと思ったし、少し好きになれた。（Tさん・社会）
- わからなかった問題を、高校生の先輩がわかりやすく教えてくれたおかげで解決できました。一つ一つの説明が詳しく丁寧で、すごく勉強になりました！（Mさん・社会）
- 高校生が体験をもとに話してくれたり、日常生活の話をしてくれたりして緊張せず楽しく学べた。（Gさん・数学）
- わかりやすく覚えやすいやり方を具体的に教えてくれて、理科を好きになれた。（Gさん・理科）
- どの問題も丁寧に優しく教えてくれて、テストのポイントやコツも細かく教えてくれた。（Tさん・数学）
- 何回も説明してくれてありがたかった。（Hさん・理科）
- とてもわかり易かった。教えてくれたのが高校1年生で、中3の時の数学の先生が、今の私の数学の先生だから、テストで出やすい傾向などを教えてもらった。（Kさん・数学・英語）



## 「ここで学びたい」その瞬間 — 中等部新入生アンケートから

先日、中等部新入生に対して行ったアンケートには、中等部への期待と希望がたくさん詰まっていました。友達や先輩の紹介、オープンスクールでの体験、部活動への憧れ——。子どもたちが本校を選んだ理由は多様ですが、そのどれもが「ここで成長したい」という前向きな気持ちにつながっています。

### 受験を決めたのはいつ頃？

#### 多い順

- 小学6年生9月以降（最終判断）
- 小学6年生4～8月（夏前～夏休み）
- 小学5年生
- 小学4年生

最も多かったのは「小学6年生の9月以降」で、オープンスクールや説明会での体験が最終的な決断につながっているようです。一方で、夏休み前～夏休み中に決めた生徒も多く、6年生の前半から本校への意識が高くなっていることが読み取れます。

また、5年生や4年生の段階で受験を決めている生徒も一定数おり、これは、きょうだいの在籍や部活動への強い憧れが背景にあります。

### どうして受けようと思ったの？

#### 多い順

- 中高一貫教育に興味があったから
- 入試なしで高校へ進学できるから
- 授業を受けたいと思ったから
- 入りたい部活動があったから
- 校舎がきれいだから
- オープンスクールの印象が良かったから
- 先輩・友達が進学していたから
- 保護者に勧められたから

選んだ理由は大きく「学習」「部活動」「学校環境」「安心感」の4つに分類できます。

#### ● 学習面

「中高一貫教育に興味があった」「授業を受けたいと思った」という声が多く、学びの質への期待が高いことが分かります。高校入試がないことによる安心感も大きな理由となっており、学習環境の安定性が評価されています。

#### ● 部活動

吹奏楽、弓道、女子バスケットボール、柔道など、本校の特色ある部活動が強い吸引力を持っています。競技として専門性の高い新体操など、クラブとの連携が入学理由になるケースも見られました。

#### ● 学校環境

「校舎がきれいだから」という回答が非常に多く、学習環境の快適さが進路選択に直結していることが分かります。図書館や体育館などの施設の充実も、児童にとって大きな魅力になっています。

#### ● 安心感・雰囲気

「オープンスクールの印象が良かった」「先輩や友達が進学していたから」など、学校の雰囲気や人間関係の安心感が決め手になっているケースも多く、“ここなら安心して通える”という信頼が広がっていることが読み取れます。

### 中等部を知ったきっかけは？

#### 主なルート（多い順）

- 保護者から聞いた
- 友達・先輩から聞いた
- 小学校で配布されたパンフレット
- 兄弟が通っていた／家族が通っていた
- オープンスクール・部活動見学
- ポスター・自分で調べた

「保護者から聞いた」「友達や先輩から聞いた」という回答が最も多く、家庭や地域の口コミが本校の大きな広報力になっていることが分かりました。また、小学校で配布されたパンフレットをきっかけに興味を持った生徒も多く、学校から発信した情報が確実に児童へ届いていることが確認できます。さらに、部活動の試合を見たことや、校舎のポスターを見かけたことがきっかけになった生徒もおり、学校の日常の姿そのものが「魅力の発信源」になっている点が特徴的です。きょうだいを通して聞いたことを理由に挙げる生徒も多く、家庭内での信頼感が進路選択に強く影響していることがうかがえます。

### オープン・スクール等には参加した？

#### 多い順

- 1～2回参加が最多
- 3回参加も一定数
- 4回以上の熱心な層も存在
- 参加なしも少数（部活目的・家庭の勧めが多い）

1～2回の参加が最も多く、3回以上参加した熱心な生徒も少なくありません。「印象が良かったから」という理由が多く、オープンスクールでの体験が受験決定の“決め手”になっているようです。

実際に校舎を見て、先輩の姿に触れることで、児童が「ここで学びたい」と感じる瞬間が生まれています。

参加なしの生徒は、部活動目的や家庭からの強い勧めが背景にあり、それぞれの家庭の事情や価値観が反映されています。

アンケートから、中等部が選ばれる理由は「学び」「部活動」「環境」「安心感」の総合力であることが分かりました。特に、口コミや家庭からの紹介が多いことから、本校の教育活動が地域から期待されていることが分かり、オープンスクールでの体験が最終的な決断につながっている点からは、学校の日常の魅力が伝わっていると推測できます。

これからも、児童が「ここで学びたい」と思える環境づくりを大切にしながら、地域に根ざした学校としての魅力をさらに高めていきたいと思えます。